

第130回 仏教公開講座

年間テーマ

生きるって ということ

サブテーマ (教区テーマ)

まなこ
『眼をひらく 心』
こころ
『心をひらく』

真宗大谷派岐阜教区・岐阜別院

日時 2015年4月20日(月) 午後6時30分～8時30分

講師 一楽 真 (いちらく まこと) (大谷大学教授)

講題 「他力の信心」

日程 午後6時30分 真宗宗歌・正信偈 (同朋奉讃式)

6時45分 講義

8時15分 質問の時間

8時30分 恩徳讃・閉会

講師紹介 一楽 真 (いちらく まこと)



1957(昭和 32)年、石川県小松市生まれ。1980年、大谷大学文学部真宗学科卒業。1985年、大谷大学大学院博士後期課程満期退学(真宗学専攻)。現在、大谷大学教授、真宗大谷派宗円寺住職。

著書 『大無量寿経講義—尊者阿難、座より起ち—』(文栄堂)
『四十八願概説—法蔵菩薩の願いに聞く—』(文栄堂)
『親鸞聖人に学ぶ—真宗入門—』(東本願寺)
『この世を生きる念仏の教え』(東本願寺)
シリーズ親鸞『親鸞の教化—和語聖教の世界—』(筑摩書房)

先生からのメッセージ

「もう自力優勝は無くなりました」とか「他力本願ではダメだ」という文脈で使われる「他力」。そのためか、親鸞聖人の教えは他人まかせにすることだと勘違いされています。確かに、阿弥陀仏による救済と言うと、自分が何もしなくても良いように聞こえるかもしれませんが、しかし、比叡山での20年に及ぶ修行を経て、法然上人との出会いを果たし、90歳で生涯を終えるまで、真剣に道を求め続けたのが親鸞です。その親鸞が他力を強調するところには、どんな意図があるのでしょうか。「他力の信心」をキーワードとして、親鸞聖人の語りかけを一緒に尋ねたいと思います。

いつでも・どこからでも聞ける「テレホン法話」、お電話ください。TEL058-265-0033